



## 潜伏キリシタンと地藏尊

滝よし子（友の会会員）

昨年（2018）7月に、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産が、世界文化遺産に登録決定」と新聞のトップ記事で報じられました。信徒弾圧と潜伏、仏教徒を装うなど独自の信仰形態を生み出した歴史、まさにキリシタン迫害の負の歴史が、世界の宝となった瞬間でした。

板野郡板野町には、天草生まれの人が建立した石造物の地藏尊があります。一見すると何の変哲もないお地藏さんですが、よく見ると有髪、額に十字（現在肉眼でははっきりと見えませんが）、しかも腕にはあたかも子供を抱いているような所作など、普通のお姿ではありません。



地藏尊

この地藏尊はかつて、大坂峠の旧讃岐街道沿いの古庵にあったものを、明治8年（1875）に新讃岐街道（現四国のみち）の開通によって、中腹の清水庵に他の石造物とともに移されましたが、昭和58年（1983）の台風で、庵は倒壊、さらに麓の十楽寺の裏山に移転され現在に至っております。

地藏尊の銘文は、「嘉永五子年 肥後天草郡 生御領村藤蔵 父母仁兵エ ヲチヨ」と刻まれています。この文字から嘉永5年（1852）に、肥後国天草郡御領村生まれの藤蔵が、父仁兵エ、母ヲチヨのために建立したと解釈できます。しかし、この地藏尊には、次のような民話が伝わっています。

### 「巡礼オチヨ」

肥後国（熊本県）のオチヨは、生まれつき足が不自由でした。阿波の十四番札所 常楽寺は、靈験あらたかという話を聞いて、オチヨは父とともに四国巡礼の旅に出ました。

やっとの思いで大坂峠まで来て、大坂口御番所脇の遍路宿でしばらく静養することにしました。2人の様子を見た宿の主人は、地藏尊を造立することを勧めたのです。そこで2人は、半月かけて願いをこめた地藏尊を彫りあげ、一番札所 霊山寺に向かって宿をあとにしました。2人の精進と地藏尊の慈悲で、オチヨの願いは叶えられたそう。

（『歴史とロマンのふるさといたの』板野町役場編、1990年）

ところで民話では、父と娘のオチヨの2人が願主となって地藏尊を建立したことになっていますが、現物の地藏尊は、肥後天草郡御領村生まれの藤蔵が、父仁兵エ、母オチヨのために建立したと銘文から読みとれます。私の知人（キリスト教研究者、故人）が数年前、この地藏尊について詳しく調査してくれ

ました。その結果は、地蔵の光背とキリシタン墓碑の光背の輪郭が酷似していること、さらに右足下の台座にも十字が刻まれていることなどから、隠れキリシタンの遺物らしいとのこと。銘文は、地蔵建立当初のものではなく、後年藤蔵が父母のために刻んだものだろうと結論されました。

さすれば民話の内容と合致しないでもないが、果たして如何なものだろうかと考えさせられます。いずれにしても地蔵尊が、隠れキリシタンの遺物と断定はできないものの、否定もできません。そこで関連資料というか、裏付け資料的な「踏絵まがいの石」がもと大坂口御番所役人であった村瀬家に残されています。

昭和 58 年 (1983) に台風で崩れた石垣の中から発見されたそうです。『板野町文化財めぐり ふるさとさんぽ 1』(板野町教育委員会・板野町文化財保護審議会、1991 年)に「踏み絵石」と紹介、町内全世帯に配布されました。縦 30cm、横 60cm、厚さ 10cm 程の和泉砂岩の板状のもので、十字架とマントを着た人物と村瀬の文字が刻まれています。中央で真っ二つに割れており、どう見ても素人作の稚拙なもの、およそ「踏絵」ではありません。

踏絵の制度は、寛永 5 年 (1628) 頃長崎で始まり、当初は紙に聖像を描いたが、すぐ破れたため板に改められ、これもやがて破損したので、後に鋳物師に青銅製を作らせたそうです。(島田孝右・島田ゆり子『踏み絵—外国人による踏み絵の記録』東西交流



「踏み絵石」(レプリカ)

叢書 雄松堂出版、1994 年より)

江戸時代徳島藩も、切支丹禁制の高札や禁止の布達、また毎年宗門改めも行われましたが、足で踏ませる踏絵の制度はもちろん、藩の法律書ともいべき『藩法集』にも、この文字の記載は認められません。

思うに、巡礼オチヨ父子は、大坂口御番所横の旅籠中島屋でしばらく逗留した折、すぐそばの番所役人の 9 代目市左衛門さんとの間に、問はず語りに肥後国天草の話をしたところ、好奇心旺盛な市左衛門さんが、踏絵まがいのものを作ってしまったものの、人目をはばかり、ちょうど普請中の石垣(滝よし子『大坂口御番所村瀬家文書』、2002 年)に埋めこみ隠してしまった。ところが 132 年後の昭和 58 年に崩れた石垣からひょっこり現れた。これが真相ではないでしょうか。たとえ踏絵まがいの石でも、隠れキリシタン、巡礼オチヨ、地蔵尊は、1 本の線で繋がっているように思われます。願わくば、この地蔵尊が MARIA 地蔵と呼ばれる日が来ることを……。

ちなみに、この踏絵まがいの石のレプリカが、旧大坂口御番所村瀬館の前庭に展示されています。

## 友の会行事報告

### 兵庫日帰りバスツアー

- 日 時 6 月 16 日 (土) 7:20 ~ 17:40
- 場 所 須磨海浜水族園 (兵庫県神戸市)  
北淡震災記念公園 (兵庫県淡路市)
- 担 当 徳野壽治 (友の会役員)  
佐藤陽一 (博物館学芸員)  
中尾賢一 (博物館学芸員)  
坂部公章 (博物館係長)
- 参加者 31 名

貸切バスで兵庫県にある「須磨海浜水族園(通称スマスイ)」と「北淡震災記念公園」を見学しました。スマスイは、水族「園」という名のとおり、広い敷地に様々なテーマのパビリオン(展示館)がありま



す。そこでは、しぐさのすべてが愛らしいラッコからその巨大さに恐怖感すら覚えるオオアナコンダまで多種多様な生きものを間近で見ることができました。さらに、約30分ごとにイルカや魚たちのライブショーが組まれており、4時間半の見学時間があったという間でした。まさに心躍るひとときでした。

もうひとつの見学場所である北淡震災記念公園では、「野島断層保存館」を訪れ、震災時の体験談を聞いたり、ゆれを体験したりしました。いつ来るかもしれない地震に対して、物心両面での備えの必要性を強く感じました。(坂部公章)



ミズクラゲ (須磨水族園)

**Vo!c<sup>e</sup> 参加者の声**

●<sup>かわはら きよみ</sup>川原喜代美さん・<sup>か</sup>もも香さん

スマスイでは、バスの中でパンフやイベント案内のプログラムをいただいていたので、到着してからスムーズにまわることができました！ 生きものの生態観察やえさやり体験など、海の世界はとても広いということを経験肌で感じる事ができたようです。

野島断層のズレやメモリアルハウスを見て、防災訓練と避難ルートの確認をしようと思いました。

●<sup>ふくもと みほこ</sup>福本実扶子さん

大変お世話になりありがとうございました。主人がいないと行くことができない2か所の施設に子供と行けて楽しい時間でした。特に野島断層保存館は、



野島断層保存館

地震の備えについて改めて考えさせられ勉強になりました。

多くの方が、このような友の会の内容を知らないのではないかと思います。あすたむらんどのように、小学校などで案内を配るなどすると、ますます子供の参加も増え、盛り上がっていくのではないのかなと思います。次の行事も楽しみです。

●<sup>ささだ じゅんじ</sup>笹田純司さん

親子2人で参加しましたが、親子それぞれで楽しむことができました。北淡震災記念公園は、当時のことを思い出しました。早朝よりお世話いただき、ありがとうございました。



参加者の皆さん (須磨水族園入口)

友の会行事報告

## ライトトラップで昆虫観察

- 日時 7月21日(土) 19:00～21:10
- 場所 佐那河内村 大川原高原
- 担当 さかい坂井なつ(友の会役員)  
やま だ か ず た か山田量崇(博物館学芸員)  
さか べ き み あ き坂部公章(博物館係長)
- 参加者 13名

夜の大川原高原にて、ライトトラップ(白いスクリーンをライトで照らしたものを)を設置し、明かりに集まる昆虫を観察しました。高原には、涼しい風が吹き渡り、下界の酷暑がうそのようでした。また、トラップ以外に明かりがないので、星空がとても美しく、まさに別天地といった感じでした。みなさん



観察のようす 1



観察のようす 2

ファミリーでの参加でしたが、日常を離れたなかでの体験に、子どもたちは目を輝かせ、ノートやカメラを手に昆虫を観察していました。最後には大きなヒキガエルが姿を見せるというサプライズもあり、参加者一同、ホンモノの自然に抱かれた感動のひとときを満喫することができました。(坂部公章)

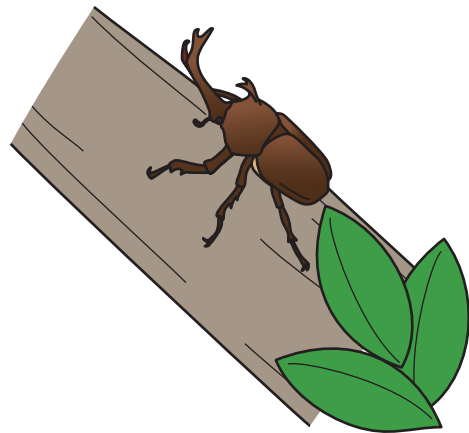
### Voic<sup>e</sup> 参加者の声

● しみずまきと清水槇人さん

こん虫がいっぱいいて、たのしかったです。またいきたいです。

● ごとういつき後藤一樹さん

今回は、夜にライトトラップをして、昆虫の集まりがけっこうよかったので自由研究にします!! ヒキガエルは大トリとしてでてきてよかったです。甲虫ができればなおよかったけど、コクワガタじゃんけん大会はよかったです。またやりたいです



参加者の皆さん



## 友の会行事報告

## 拓本をとろう！

- 日時 10月27日(土) 13:20～15:30  
 ○場所 徳島県立博物館  
 ○担当 森 敏博 (友の会役員)  
       さかべ きみあき (博物館係長)  
 ○参加者 14名

博物館の実習室にて行いました。会員の森マスマミさんが、拓本の取り方やうまく取るコツなどを丁寧に教えてくださいました。参加者は、水を使わず色えんぴつで写し取る乾拓(フロッタージュ)と、水を使い墨で写し取る湿拓の2通りの方法を体験しました。写し取る資料は、様々な植物の葉や古銭、土器や瓦を用いました。

参加者のみなさんは、年齢や拓本の経験年数は様々でしたが、楽しみながら拓本を学ぶことができました。(坂部公章)

## Voice 参加者の声

## ●森本嘉訓さん

拓本をとる対象は様々あることがわかりました。あらゆる物が相手になることも、アイデアによっていろいろあると思います。植物の葉は面白く、よく植物が理解できます。樹皮はどうでしょうか。拓本

をとるといことは、相手を観察して理解することに役立ちます。もう一つは、学術的な面で、石造物の拓本などは博物館の資料となりますし、系統的に集めて展示することも大事です。大学生に働きかけて、拓本講座に参加してもらいたいです。

## ●福本こうたさん

かわらのしつたくがおもしろかった。もってかえっていえにかざりました。

## ●福本ゆうこさん

「拓本をとろう！」でおもしろかったのは、しつたくです。はっぱをすみでぼんぼんするのがおもしろかったです。いえの手をあらうところにかざっています。



拓本をとっています



森マスマミさんによる解説



参加者の皆さん

## 友の会行事報告

## 遺跡・古墳見学（徳島市国府町）

- 日時 11月10日（土） 13:00～15:30
- 場所 徳島市国府町（矢野古墳・奥谷古墳・矢野遺跡・宮谷古墳・徳島市考古資料館）
- 担当 うえ ぢ たけひこ 植地岳彦（博物館学芸員）  
さか べ きみあき 坂部公章（博物館係長）
- 参加者 8名

みごとに秋晴れのなか、徳島市国府町にある古墳や遺跡をめぐりました。矢野古墳では石室の中で、奥谷古墳や宮谷古墳では墳丘の上から、遠くいにしえの人々のくらしや風景に思いを馳せました。3km程度の行程でしたが、古代のロマンにたっぷりと浸ることができました。（坂部公章）

Voic<sup>e</sup> 参加者の声● みつむらみつよ 満村充代さん

矢野銅鐸が発見された1992年、私は矢野遺跡のすぐ近くで勤務していて、リアルタイムで発掘現場を見たり上空を飛ぶ報道機関のヘリコプターの音を聞いたりしていました。植地先生の詳しい説明を聞きながら、当時のことをいろいろ思い出し、感慨深いものがありました。

今回のような、知的好奇心が刺激され、身体の健康にも良いウォーキング企画には是非また参加させていただきたいです。この度は有り難うございました。

● こいで みつる 小出 満さん

先日はありがとうございます。いつものことながら、古代の遺跡巡りは私にとって至福のひとつとなりました。時空を超えて想像をたくましくさせてくれるからです。

人にとって無上の贅沢とは、近未来では宇宙旅行となるでしょうが、古代なら間違いなく墳墓の築造でしょう。ピラミッドには及びませんが、四国の片



矢野古墳

田舎でも、県人の度肝を抜くような古墳が数多く存在します。当時の権力者がなぜこうしたものをつくったのか、その動機や死生観はどのようなものだったのだろうか。そして、築造が苦役、今ならパワーハラによるものだったのか、それとも多くのボランティアが喜び勇んで参加するお祭りのようなイベントだったのか、と考えは広がります。

また、きのべやま 気延山の山腹斜面につくられた矢野古墳、あの巨石は一体どこからどのようにして運んだのだろうか。つくられた6世紀後半、その頃徳島に車輪を用いた荷車は在ったのだろうか。石材の採石場所が鮎喰川なら、現地から相当離れています。もしかして当時は、気延山のすぐ下を流れていたのかもしれない等々、想いはつきることがありません。

そして結論はいつも同じです。不順な気候に泣かされ、深刻な獣害に悩まされる我が農耕民族の現状に、つくづく「昔の人は偉かった」と思うのでした。



宮谷古墳にて





参加者の皆さん

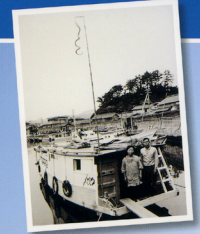
## ご案内

博物館及び鳥居龍蔵記念博物館の図録を博物館受付、ミュージアムショップで販売しております。友の会会員証を提示くださると1割引となります。ぜひお買い求めください。

企画展図録

# 阿波漁民ものがたり

— 海を渡り歩いた漁師たちの5つの話 —



2018 徳島県立博物館

A4版、94P、2018 (H30) 4.27 発行 定価 1,200円



A4版、88P、2017 (H29) 10.14 発行 定価 1,000円



A4版、48P、2018 (H30) 2.10 発行 定価 1,000円



## 鳥居龍蔵記念博物館から 企画展のお知らせ

### 鳥居龍蔵と小金井良精 —日本人の起源を求めて—

黎明期の日本人類学における主要な課題のひとつに、日本人の起源を探ることがありました。明治中頃以降、鳥居龍蔵の師で人類学者の坪井正五郎の説と、解剖学者の小金井良精の説が対立し、論争となっていました。鳥居は次第に小金井の説に注目するようになりました。

大正時代になると、人類学界では、発掘された古人骨をもとに日本の先住民を解明しようとする気運が高まり、古人骨研究の第一人者であった小金井は、各地の考古学者から調査の協力要請を受けるようになりました。鳥居も小金井に協力依頼をした一人であり、このとき小金井が鳥居に与えた知見は、鳥居の日本人起源論にも影響を与えました。

**鳥居龍蔵と小金井良精**  
—日本人の起源を求めて—

平成31年 **1月26日** [土] ~ **3月3日** [日]

会場：徳島県立博物館 企画展示室  
主催：徳島県立鳥居龍蔵記念博物館・徳島県立博物館

●開館時間：9:30 ~ 17:00  
●休館日：月曜日 ※ただし2/11(月・祝)は開館、2/12(火)は休館  
●観覧料：一般200円/高校・大学生100円/小・中学生50円  
※20名以上の団体は2割引 ※土・日曜日、祝日は高校生以下無料  
※学校教育による利用は無料 ※障がい者とその介助者1名は無料  
※65歳以上は100円 (割引を希望される方は証明できるものをご提示ください)

文化の森総合公園  
徳島県立鳥居龍蔵記念博物館  
〒770-8070 徳島市八万町寺山  
tel 088-668-2514 fax 088-668-2197  
http://www.aec-museum.mts.tokushima-ec.ed.jp

今回の企画展では、近代日本を代表する解剖学者・人類学者であった小金井良精を取り上げ、その生涯とともに、日本人類学における功績や鳥居との交流を紹介します。

1. 会期  
2019年1月26日(土)～3月3日(日)

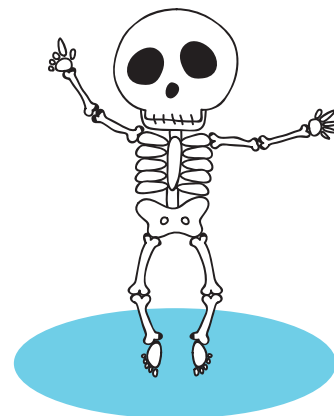
2. 会場  
徳島県立博物館 企画展示室

3. 観覧料 ( ) 内は20名以上の団体。  
一般 200円 (160円)  
高校・大学生 100円 (80円)  
小・中学生 50円 (40円)

4. 関連行事  
(1) 記念講演会「骨が語る日本人の歴史」  
講師：片山一道氏 (京都大学名誉教授)  
日時：2月24日(日) 13:30～15:00  
場所：文化の森イベントホール  
※参加無料 当日受付

(2) 展示解説  
日時：1月27日(日)、2月10日(日)、  
2月11日(月)、3月3日(日)  
13:30～14:30  
2月3日(日) 11:00～12:00  
場所：博物館企画展示室  
※観覧料が必要

5. 図録  
「鳥居龍蔵と小金井良精—日本人の起源を求めて—」を800円で販売中。



### アワーミュージアム 第63号

2019年1月31日発行：徳島県立博物館友の会  
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内  
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197  
E-mail: mus-fukyu@mt.tokushima-ec.ed.jp